

里親学生支援室だより NO. 25



2022/8/29 (月)

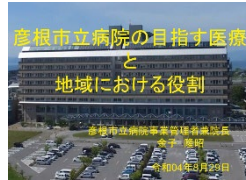
発行日:2022/10/4 発行元:里親学生支援室

彦根市・米原市方面での宿泊研修をオンライン配信で実施しました!

8月29日(月)に「彦根市・米原市方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、認定NPO法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターと協同で宿泊研修を実施しました。当初の予定では彦根市・米原市方面の各施設を訪問し、見学を行う予定でしたが、コロナの感染拡大の影響により、実地見学を中止せざるを得ない状況となり、急遽、オンライン配信に変更しての研修となりましたが、学生14名(医学生10名、看護学生3名、滋賀県立大学人間看護学部1名)が参加しました。今回、学生は事前学習を行ったうえで参加しており、当日は疑問点などについて質問を行いました。学生からは、4施設全てのお話を聞くことができ、大変充実した内容であったとの声があり、学びの多い研修となりました。

彦根市立病院

金子院長から病院の概要についてお話いただいた後、在宅診療科の児玉医師より「在宅医療支援室・在宅診療科の活動」についてご説明いただきました。最後に、上村看護部長より「地域医療・在宅医療の取組」についてご説明いただきました。



豊郷病院

横田院長から自己紹介及び病院の概要についてお話いただいた後、ご兄妹で九州から入職された看護師の方に豊郷病院での働き方についてお話いただきました。



医療スタッフの数が足りていない中、各病院が急性期、回復期などの役割を分担することで広い地域の隅々に医療を提供していることを知りました。また、介護者が休息するためのレスパイト入院が導入されていることを知り、時代の流れにあった新しいシステムが構築されているのだと分かりました。

中核病院、診療所それぞれが地域に根差し、近隣住民の健康と生活を守っていることを学びました。 医学科 第1学年

◆勉強会◆ 18:00~19:00 講演・意見交換等

講演：『地域における彦根市立病院の役割』
彦根市立病院 循環器内科部長 兼 在宅診療科部長 宮澤 豪 氏



地域のことと、医療機関どうしの関係性なども知ることができ、すごく勉強になりました。実際に訪れたかった思いもありますが、凝縮した形でそれぞれのお話をまとめて聞けたことで、かえってそれぞれの特徴や関係のようなものを比較する見方ができたように思います。 医学科 第2学年

米原市地域包括医療福祉センター 「ふくしあ」

中村センター長から、ご自身の歩まれた道、施設の立ち上げなど、高齢者だけではなく、小児や障がい者の方が生き生きできる地域づくりを目指した充実した地域包括ケアの取組みや、患者さま・ご家族の方の声も聞かせていただき、米原市における地域包括ケアのあり方について学ばせていただきました。



地域社会と医療との結びつきが顕著に表れているのが湖北医療圏でした。地域包括ケアを高齢者だけでなく、小児に拡張していく「ふくしあ」さんの考え方は、持続的な地域社会の形成につながるのではないかと考えました。 医学科 第3学年

地域包括医療の病院は赤ちゃんからお年寄りの方までを対象とし、様々な病気を診るということを主な業務とされていますが、それ以外にも健康診断をしたり、地域の行事に参加したりされているということを知りました。それらのことにより、地域の人たちと病院が密接に関係を築くことができるのだということに気づきました。 看護学科 第1学年



地域包括ケアセンターいぶぎ

畑野センター長から施設の建設に至った経緯や概要についてお話いただきました。赤ちゃんからお年寄りまで診ることのできる地域包括ケアのまちづくりに貢献されてきた流れなどについて、在宅医療の思い・大切さについて学ぶことができました。



地域包括ケアという言葉がどの病院や施設のお話からも出てきており、それぞれの施設での役割は違うが今後地域包括ケアをより推進していくことが大切だと感じた。 看護学科 第2学年

地域の方が安心して在宅療養で過ごせるように、訪問診療を開業医の方々と一緒に携わっているというお話は大変興味深いものでした。 医学科 第1学年



研修の様子は里親HPにも詳しく掲載しています!!

地域里親学生支援のホームページ (<http://www.shiga-med.ac.jp/~satooya/>)をご覧ください!